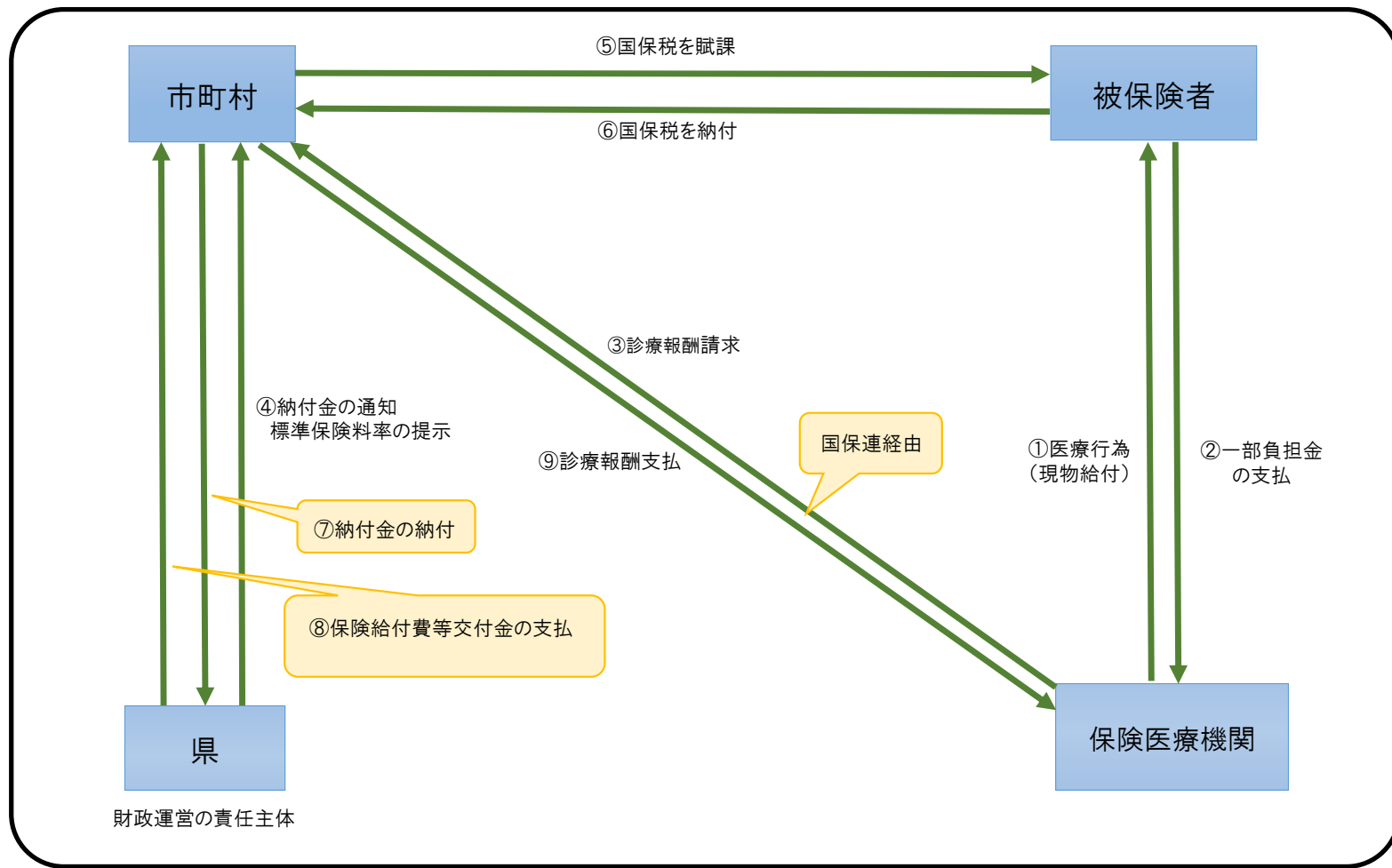


# 令和4年度国保事業費納付金等の算定方法について

令和3年9月6日

福島県国民健康保険課

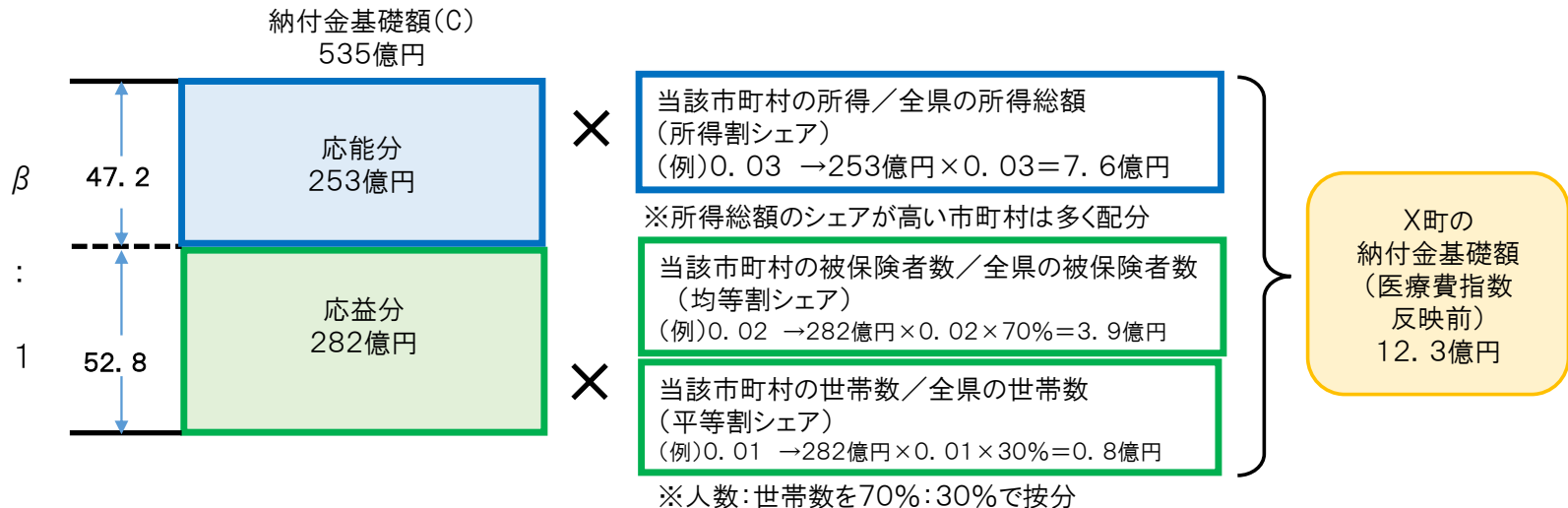
(1) 財政運営の仕組み 平成30年度～



(2) 県全体の納付金基礎額の算出 県全体費用－公費①(県全体で差し引く公費)＝納付金基礎額(C)を算出  
 ※数値は令和3年度納付金算定に用いたもの

|                        |               | 県全体費用(推計)    |                    |         |
|------------------------|---------------|--------------|--------------------|---------|
| 納付金<br>基礎額(C)<br>535億円 | 医療分           | 公費①<br>947億円 | 納付金基礎額(C)<br>369億円 | 1,316億円 |
|                        | 後期高齢者<br>支援金分 | 公費①<br>120億円 | 納付金基礎額(C)<br>113億円 | 233億円   |
|                        | 介護<br>納付金分    | 公費①<br>54億円  | 納付金基礎額(C)<br>53億円  | 107億円   |

(3) 納付金基礎額(C)を応能分・応益分に配分



国が示す  $\beta$  (全国平均と比較した本県の所得水準)

令和元年12月25日厚労省通知 医療分0.895 後期分0.894 介護分0.877

→ 応能のシェア: 応益のシェア = 47.8:52.2

(4) 医療費指数を反映(医療分のみ)→各市町村の納付金基礎額(c)を算出

$$\text{納付金基礎額(医療費指数反映前)} \times (1 + \alpha \times (\text{医療費指数} - 1)) \times \text{調整係数}(\gamma) = \text{納付金基礎額}(c)$$

医療費指数反映係数  $\alpha$  ( $0 \leq \alpha \leq 1$ )

$\alpha$ の効果 (医療費指数=1.2  $\gamma=1$ と仮定)

①  $\alpha=1$  【医療費指数をすべて反映】

$$10\text{億円} \times (1 + 1 \times (1.2 - 1)) \times 1 = 10\text{億円} \times 1.2 = 12\text{億円}$$

②  $\alpha=0.5$ の場合 【医療費指数を半分反映】

$$10\text{億円} \times (1 + 0.5 \times (1.2 - 1)) \times 1 = 10\text{億円} \times 1.1 = 11\text{億円}$$

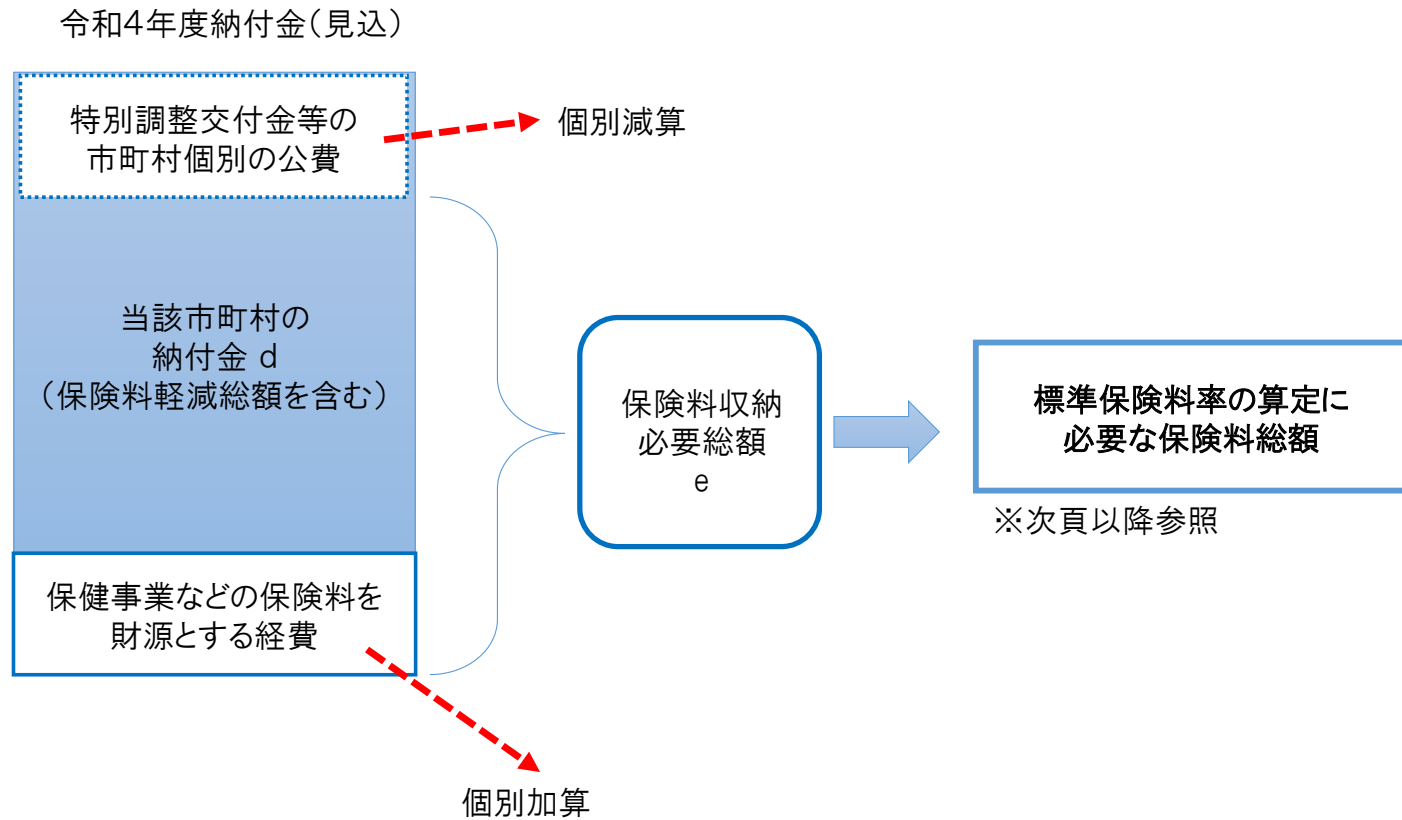
③  $\alpha=0$ の場合 【医療費指数の影響を受けない】

$$10\text{億円} \times (1 + 0 \times (1.2 - 1)) \times 1 = 10\text{億円} \times 1 = 10\text{億円}$$

(5) 各市町村の納付金基礎額(c)－公費②(各市町村ごとに差し引く公費)＝納付金(d)を算出

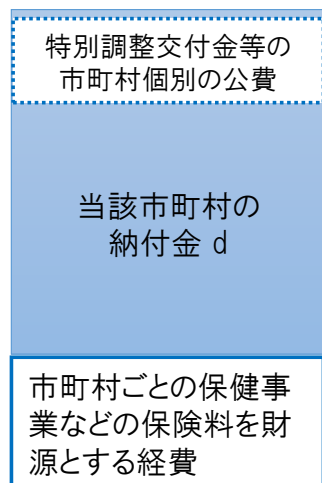


(6) 市町村ごとの個別経費を加算・減算



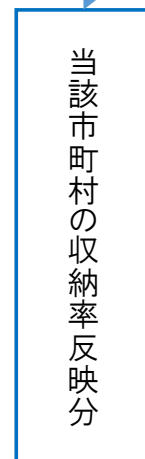
(7) 市町村標準保険料率の算定方法(概要)

| 収納率 | 反映分 | 保険料率 |
|-----|-----|------|
| 高   | 小   | 低    |
| 低   | 大   | 高    |

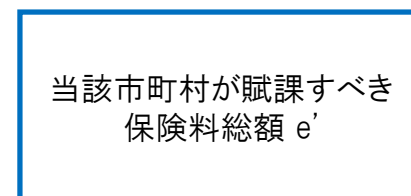


保険料収納  
必要総額 e

+



=



県→市町村



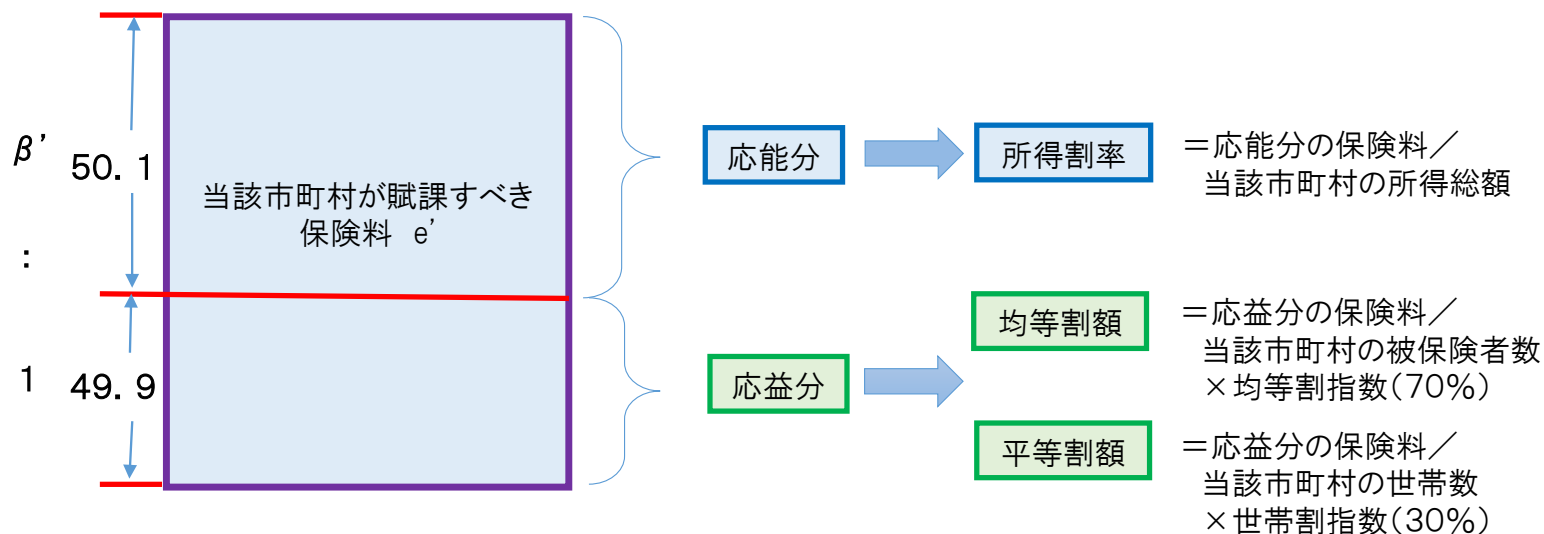
- ・市町村標準保険料率【3方式(所得割・均等割・平等割)】
- ・市町村独自の算定方式による標準保険料率

【計算例】

市町村が保険料として収納すべき金額:9億円  
市町村の収納率:90%  
→賦課すべき保険料:10億円

※【参考】令和3年度標準保険料率に用いた当該市町村の  
収納率  
…平成29~令和元年度の市町村規模別の平均収納率

(8) 市町村標準保険料率の算定方法(詳細)



※各指数は、国民健康保険法第29条の7第2項を基準に指数化したもの。

<計算例>

Y市の賦課すべき保険料が1,000万円、所得総額が5,170万円、被保険者数483人、世帯数235世帯とし、課税方式が3方式の場合

- 所得割率 応能分517万円 / 所得総額5,170万円 × 所得割指数100% = 10%
- 均等割額 応益分483万円 / 被保険者数483人 × 均等割指数70% = 7,000円
- 平等割額 応益分483万円 / 世帯数235世帯 × 平等割指数30% = 6,000円

県独自の  $\beta'$  値(全国平均と比較した本県の所得水準を使用せず、市町村の賦課割合の実績(応能割 > 応益割)とする考え)

具体的には、平成30年度の標準保険料率算定における  $\beta'$  値(医療分1.1918、後期分1.1970、介護分1.1672)を国が示す  $\beta$  値に徐々に近づける。

【参考 令和3年度標準保険料率に用いた  $\beta'$  値】

医療分1.0034(50.1:49.9)、後期分1.0049(50.1:49.9)、介護分0.9834(49.6:50.4)